

運動・スポーツ実施頻度に及ぼす年収の影響

石原 雲母 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)
指導教員 山本 達三

キーワード：個人年収，世帯年収，スポーツ実施頻度

1. はじめに

運動・スポーツ実施はその特徴として，準公共財や公共財であることも多く，市場価格が存在しない種目も多い一方で，費用負担が必要になる種目もある。海老原 (2012) は，高価な財支出やサービス支出を伴うスポーツと収入には有意な関連があることを報告している。2010 年の笹川スポーツ財団の報告では，運動・スポーツ種目の実施と個人年収との関連性を報告しているが，年収区分幅が 2012 年データ，2014 年データと一致していないために 3 時点の比較検討が困難となっている。また，頻度の区分幅も年 1 回以上に限定されているために高頻度 (月 1 回以上，週 2 回以上) での関連性は未検討となっている。

2. 目的

本研究では，2010 年・2012 年・2014 年の 3 時点の笹川スポーツ財団のデータを同じ年収区分幅と頻度区分幅に再集計し，個人年収・世帯年収別と運動・スポーツ実施の関連性を明らかにすることを目的とする。

3. 研究方法

笹川スポーツ財団の 2010 年・2012 年・2014 年のスポーツライフ・データを使用する。個人年収・世帯年収とスポーツライフ・データの運動・スポーツ実施頻度を (年 1 回以上，月 1 回以上，週 2 回以上) に再集計し， χ^2 検定をおこなった。

4. 結果と考察

「ゴルフ」の 2010 年・2012 年・2014 年を 3 時点で比較すると，年 1 回以上でみると，2010 年では ($\chi^2=27.791$, $df=3$) 5%水準で有意，2012 年では ($\chi^2=26.321$, $df=3$) 5%水準で有意，2014 年

では ($\chi^2=18.046$, $df=3$) 5%水準で有意と，全ての時点で実施と年収に有意な関連性がみとめられた。また，月 1 回以上の 2010 年，2012 年，週 2 回以上の 2010 年にも年収との関連がみられた。しかし，月 1 回以上の 2014 年と週 2 回以上の 2012 年，2014 年では有意な関連性がみとめられなかった。

高価な利用料金，専門的道具が必要な運動・スポーツ種目は，個人年収・世帯年収との関連性が大きいと考えられるが，表のように「ゴルフ」でも実施頻度区分が高頻度になると，個人年収・世帯年収と運動・スポーツ実施頻度の関連性が失われることが伺えた。

ここでは示さないが，「水泳」のように低年収区分 (200 万円未満) で有意差がみとめられることも確認されている。「水泳」は，公共施設などを利用することによって低価で実施できる。また，高価な道具を使用せずに実施できることが個人年収・世帯年収と実施に関連していると考えられる。

「ジョギング・ランニング」は場所や施設にかかわらず，手軽に低価で実施できる種目である。しかしながら，月 1 回以上の 2014 年，週 2 回以上の 2014 年以外全ての実施頻度区分で実施と収入の有意な関連性がみとめられた。影響している要因としては，ジョギングブームを支えるランナー達の年齢構成が関係しているのかもしれない。

引用・参考文献

海老原修スポーツライフ・データ 2012 スポーツライフに関する調査報告書，笹川スポーツ財団，60-66. 2012

表 2010年・2012年・2014年運動・スポーツ実施と個人年収・世帯年収

	ゴルフ								
	年1回以上			月1回以上			週2回以上		
	2010年	2012年	2014年	2010年	2012年	2014年	2010年	2012年	2014年
200万円未満	23.1	4.08	3.7	15.9	0	3.2	21.1	2.1	0
200万円以上400万円未満	27.6	26.53	20.4	22.2	45	22.9	27.6	41.7	50
400万円以上600万円未満	26.3	24.49	32.4	27	0	31.1	26.3	20.8	0
600万円以上	25	44.9	43.5	34.9	55	42.6	25	35.4	50
χ^2, df	27.791***, 3	26.321***, 3	18.046***, 3	34.426***, 3	10.190*, 3	6.158, 3	55.747***, 3	2.594, 3	1.119, 3

*:p<0.05,**:p<0.01,***:p,0.001